

## 高難度手術施設の集約化：大阪府における食道がんと胃がん

INAOKA Fumie

稲岡 史絵

大阪国際がんセンター

最優秀  
口演賞

この度は、日本がん登録協議会第35回学術集会において最優秀口演賞を賜り、大変光栄に存じます。このような栄誉ある賞をいただくことができましたのは、ご指導・ご支援いただいた共同演者の先生方をはじめ、本研究に携わってくださった皆様のお力添えの賜物です。また、本研究をご評価くださいました学術委員会委員の皆様ならびに大会長の尾崎米厚先生に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

近年、消化器外科医の減少が見込まれる中、限られた医療資源で質の高いがん医療を維持するため、高難度医療の集約化が国においても重要な課題として議論されています。しかし、高難度手術が実際にどの程度特定の施設へ集約されているのか、その実態を定量的に評価した報告は少なく、十分に明らかになっていませんでした。

そこで本研究では、大阪府がん診療連携協議会による大阪府内62のがん診療連携拠点病院等の院内がん登録とDPCのリンケージデータ（CanReCO；2019～2023

年症例分）を用いて、食道がんおよび胃がんの高難度手術について、施設分布や集中度を評価し、集約化の現状を明らかにすることを目的としました。その結果、高難度である食道がん手術では集約化が進んでいる一方、胃がん手術では多くの施設で実施されており、明確な集約化は認められませんでした。これらの結果は、高難度手術の特性によって集約化の状況が異なることを示しており、今後のがん医療提供体制を検討する上での基礎的な知見になるものと考えています。

今回の受賞を励みに、今後も診療情報管理士として、がん登録データを活用した研究を通じ、医療現場や政策立案に役立つエビデンスを発信し、より良いがん医療の実現に貢献できるよう努めてまいります。

最後になりましたが、本研究の実施にあたり、データ収集にご協力いただいた大阪府がん診療連携協議会参加医療機関のがん登録室の皆様をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 悪性軟部肉腫における施設ボリュームと生命予後の関連

HARA Kanako

原 加奈子

大阪国際がんセンター

優秀  
口演賞

このたび、日本がん登録協議会第35回学術集会（米子大会）において、優秀口演賞を賜りました。この場をお借りして、ご指導いただいた諸先生方、審査いただいた学術委員会委員の皆様、ならびに大会長の尾崎先生に心より感謝申し上げます。

悪性軟部肉腫は全悪性腫瘍の1%未満を占める希少がんであり、多様な組織型を有することから、正確な診断と専門的な治療が求められます。近年、希少がんでは専門施設への集約化の重要性が指摘されていますが、悪性軟部肉腫を対象とした施設ボリュームと生命予後との関連を検討した国内の報告は限られています。

本研究では、大阪府がん登録データを用い、2007～2015年に診断された四肢・体幹原発の悪性軟部肉腫手術症例を対象としました。施設ごとの手術件数からハイボリュームセンター（HVC）とノンハイボリュームセンター（NHVC）に分類し、症例の集積状況を把握す

るとともに、多変量解析により施設ボリュームと生命予後との関連を検討しました。

その結果、手術症例は少数のHVCに集積する一方、多くの施設に分散している実態が明らかとなりました。また、背景因子を調整した後も、HVCで治療を受けた患者はNHVCと比較して良好な生命予後を示し、施設ボリュームが治療成績に関連することが示唆されました。

本研究の結果は、専門施設への適切な紹介体制や地域連携の重要性を支持するものと考えています。本知見が、今後の希少がん診療における集約化と地域連携のあり方を検討する上での一助となれば幸いです。

がん登録データは、がん医療の実態把握や診療の評価に欠かせない重要な情報基盤です。今後も、登録データを活用した研究を通じて、新たな知見の創出に努めてまいります。